『日の鳥1』　『日の鳥2』
こうの史代著　日本文芸社　2014、2016

　みなさん、ご入学、ご進級おめでとうございます。今年もたくさん松蔭の図書館を使っていろんな本に出会ってみてくださいね。
　さて、先月３月１１日は、みなさん何の日か知っていますか？そう、東日本大震災が起きた日ですね。今年は発生から６年がたちます。当時、わたしは夕方の報道番組でこの地震を知りましたが、テレビの前で呆然としたのを今も覚えています。テレビにうつる現地の状況に、胸がざわつき、言葉を失いました。発生から６年がたったいまでも、震災の傷跡が残っているところもあり、復興活動は続いています。今月はそんな東日本大震災の本を紹介します。
　昨年、『この世界の片隅に』で話題となったこうの史代さんが震災から５年の東日本の姿を穏やかにボールペンで描いた１冊です。主人公は、突然いなくなった妻を探して旅をする１羽のニワトリ。ニワトリは東日本、そう地震で被害を受けた地を妻を探しながらあちこち旅をします。
『この世界の片隅に』でも感じましたが、戦争や震災、つらい状況のなかでも、たしかな生活や風景はちゃんとそこにあって、その生活や風景はこれからも絶対なくしてはいけないなというのが１ページ１ページからやさしく伝わってきます。この本にも東日本のさまざまな風景や人々の生活が描かれています。冷蔵庫創業の地の宮城県気仙沼市の風景であったり、巨大なソフトクリームが人気の岩手県の花巻市にある百貨店の屋上からの風景など、確かに、震災によって、曲がってしまったガードレールや、倒れてしまった電信柱、半壊してしまった学校など、震災の傷跡も描かれているのですが、そのなかでも、こういった東北の何気ない穏やかな生活がきちんとあり、それをこうのさんがやさしく描き出しています。ボールペンだからこそ伝わる、繊細でやさしいタッチはいのちを持っているかのようですね。地震発生から年をおって、東北の姿を、ニワトリの旅と重ね描いています。復興してだんだんと活気づいていく東北の風景にも胸をうたれます。また、東北の風景をバックに、主人公のニワトリの旅のつぶやきも愛らしさとユーモアがいっぱいでおもわずほっこりとし、妻探しを応援したくなります。（その日ニワトリが食べたものもページの片隅にちょこんと載っているんですよ。その地にまつわるものだったり、その日に行ったところに関わるものだったり、キーワードになっています。）ニワトリの旅といっしょに“東北のいま”を見つめてみませんか。